



国立大学法人  
長崎大学  
NAGASAKI UNIVERSITY

# アニユアルレポート

## 平成30年度



長大生の未来を支える

### 長崎大学 西遊基金

ご支援のお願い

NAGASAKI UNIVERSITY

悠久の志をつなぐ

NAGASAKI UNIVERSITY

長崎大学は  
2019年8月1日から  
**敷地内全面禁煙**です。

『敷地外で吸えばセーフ』ではなく、  
個人のモラルやマナーが問われています。  
敷地外であっても、公道や大学正門前など  
喫煙にふさわしくない場所での喫煙は、絶対にやめてください。  
※病院を含む本地区キャンパスは、2008年4月に禁煙済です。

2002年「タバコパッケージの健康啓発デザイン」コンテスト受賞作品です

その先の人生を灰にしてしまうのですか？

NAGASAKI UNIVERSITY

## アニュアルレポートの公表にあたって

「長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的发展に貢献する」-これが、長崎大学の理念です。本学は、「東シナ海を介して大陸と向き合う地理的環境と出島、原爆被ばくなどの記憶を有する地域に在って、長年にわたり培ってきた大学の個性と伝統を基盤に、新しい価値観と個性輝く人材を創出し、大きく変容しつつある現代世界と地域の持続的发展に寄与する」という基本的目標を掲げ、その実現に向けた教育・研究・社会貢献等の活動をしております。

このアニュアルレポートは、本学が取り組んでいる活動と財務諸表で公開されている情報を、長崎大学を支えてくださる学生・保護者の皆様、企業や自治体の皆様、そして国民の皆様に、わかりやすくお伝えすることを目的として公表しております。

皆様には、当レポートの内容をご覧いただき、本学の教育研究活動について深くご理解をいただくとともに、長崎大学へのますますのご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

国立大学法人長崎大学 学長 河野 茂



# 目次

---

|                        |     |    |
|------------------------|-----|----|
| 第3期中期目標期間における基本的目標     | ・・・ | 1  |
| <b>平成30年度 主な教育研究活動</b> |     |    |
| 教育                     | ・・・ | 2  |
| 研究                     | ・・・ | 3  |
| 産学連携                   | ・・・ | 4  |
| その他                    | ・・・ | 5  |
| <b>平成30年度 決算</b>       |     |    |
| 国立大学法人会計のしくみ           | ・・・ | 7  |
| 決算の概要                  | ・・・ | 9  |
| 貸借対照表の概要               | ・・・ | 10 |
| 損益計算書の概要               | ・・・ | 13 |
| キャッシュ・フロー計算書の概要        | ・・・ | 19 |
| 利益の処分に関する書類の概要         | ・・・ | 20 |
| 決算報告書の概要               | ・・・ | 21 |
| 主な財務指標                 | ・・・ | 23 |

## 第3期中期目標期間における基本的目標

- (1) 熱帯医学・感染症、放射線医療科学分野における卓越した実績を基盤に、予防医学や医療経済学等の関連領域を学際的に糾合して、人間の健康に地球規模で貢献する世界的“グローバルヘルス”教育研究拠点となる。
- (2) 全ての教育研究領域の高度化、国際化を推進するとともに、国内外のトップレベルの大学との連携の強化及び実質化、管理運営・人事システム改革、学内資源の適正再配置等をとおして、大学全体の総合力を格段に向上させ、世界最高水準の総合大学への進化のための基盤を構築する。
- (3) グローバル化する社会の要請に応えるべく、国際水準の教育、キャンパスの国際化、日本人学生の留学の飛躍的拡大の実現に向けた戦略的かつ包括的な教育改革を推進し、地域の課題を掘り下げる能力と、多文化が共生する国際社会の現場で活躍する力を兼ね備えた長崎大学ブランド人材を育成する。
- (4) 特に学部教育においては、学生参加型の新しい教養教育と世界標準の学部専門教育との有機的結合により、問題解決能力・創造的思考力・コミュニケーションスキル等の学士力と各専門分野の知識・素養に裏打ちされ、現実の課題に即応できる個性輝く学士を育成する。また、新しい大学教育を高校教育改革と効果的に接続させるため、多方面かつ基盤的な資質・能力を測るための新しい入学者選抜方法を先進的に開発・導入する。
- (5) 地域に基盤を置く総合大学として、地域のニーズに寄り添いつつ、教育研究の成果を地域の行政、産業、保健医療、教育、観光に還元し、グローバル化時代における地方創生の原動力となる。特に、海洋エネルギー、海洋生物資源、水環境、地域福祉医療、核兵器廃絶など、地域社会の持続的発展に大きく貢献し、かつ、地球規模課題にも直結する特色分野における教育研究を重点的に推進する。また、東日本大震災直後から継続している福島との協働を強化し、福島の実未来創造に貢献する。

# 平成30年度 主な教育研究活動

## 教育

### ◆卓越大学院プログラムの採択

平成30年度「卓越大学院プログラム」に、「世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム」（プログラムコーディネーター：有吉紅也教授（熱帯医学研究所））が採択されました。「卓越大学院プログラム」は、新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材（高度な「知のプロフェッショナル」）を育成することを目的としています。採択の対象となるプログラムは、海外トップ大学や民間企業などの外部機関と組織的な連携を図り、世界最高水準の教育・研究力を結集した5年一貫の博士課程学位プログラムです。

今回の選定には38大学から54件（うち国立大学が44件）の申請があり、長崎大学のプログラムはその中から採択されました。

（連携先機関：ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院（LSHTM）、北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター、帯広畜産大学原虫病研究センター、国立国際医療研究センター、国際協力機構、シスメックス株式会社）



ジョイントディグリープログラム調印式



LSHTMとの合同シンポジウム

| プログラム1・2年目<br>グローバルヘルス卓越コースワーク<br>主なモジュール |              | プログラム3・4・5年目<br>グローバルヘルス卓越リサーチ<br>ワークモジュール   |
|---|--------------|--|
| 熱帯医学                                      | 疫学・統計学       | 実利的な目的を明確に設定し、課題解決型の研究指導を実施。LSHTMと長崎大学教員が合同で実施する国際共同研究に参画する中で卓越した研究指導（チーム型研究指導）を受ける。 |
| 地球環境・衛生学                                  | 保健政策・マネージメント |  |
| 国際地域保健学                                   | 社会行動科学       |  |

博士課程リーディングプログラム  
「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」の実績を基盤に構築。

TMGH研究科のほか、医歯薬学総合研究科、多文化社会学研究科、工学研究科、水産・環境科学総合研究科の院生が受講可能。

ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院（LSHTM）とのジョイントディグリープログラムを中核に卓越大学院プログラムを構築

### ◆多文化社会学研究科・修士課程の開設、令和2年4月の博士後期課程開設が決定

“人文社会科学系グローバル人材の育成”を目的として平成26年度に開設した多文化社会学部の学術的な専門性と社会的な実践性を一層高めることを目的として、平成30年4月に多文化社会学研究科多文化社会学専攻（修士課程）が開設されました。21世紀社会の諸問題に対して、多文化社会学の超域的かつ俯瞰的な見地から問題の発見・説明・予測・解決に取り組むことができる人材を育成します。また、令和2年4月に多文化社会学研究科多文化社会学専攻（博士後期課程）が開設されます。

○新たな学問としての多文化社会学を教員・学生がともに創る

|                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| 学問のエレメンツ（基盤必修科目群）    | 多文化社会学の深化と修得       |
| 学問のプラクティス 徹底的な専門性の養成 |                    |
| グローバルスタディーズ科目群       | 言語多様性科目群           |
| 政策科学科目群              | 核軍縮・不拡散科目群         |
| 環海日本長崎学・アジア研究科目群     | （諸問題に対応した5つの科目群構成） |

○フィールドワークやインターンシップ等、海外での多様な実践の奨励  
○世界トップクラスの研究図書館・博物館等との連携  
公益財団法人東洋文庫、国立歴史民俗博物館

### ◆熱帯医学・グローバルヘルス研究科博士後期課程（2専攻）の開設

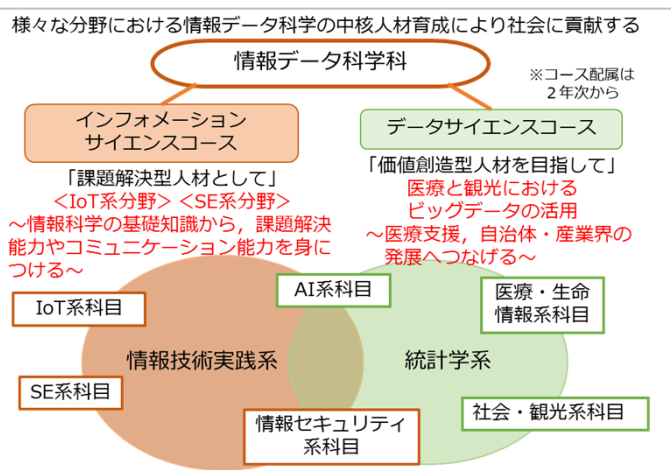
平成30年4月に熱帯医学・グローバルヘルス研究科（TMGH）に博士後期課程が開設されました。国際共同研究等において高い次元でグローバルヘルスを理論的・実践的に研究・創造する能力を備えた実践的・社会的リーダーを養成する「グローバルヘルス専攻」と、グローバルヘルス領域における卓越したリーダー（TMGHとロンドン大学衛生・熱帯医学大学院（LSHTM）との共同研究・プロジェクトの推進及び両大学の更なる連携強化を図り、延いては日英の連携を中心として世界の学術研究を牽引する人材）を養成する「長崎大学ーロンドン大学衛生・熱帯医学大学院国際連携グローバルヘルス専攻」の2専攻からなります。

国際連携専攻ではLSHTMとのジョイントディグリープログラムにより両校が認める共同学位の取得が可能です。

## 平成30年度 主な教育研究活動

### ◆令和2年4月の新学部「情報データ科学部」開設が決定

「情報データ科学部」を令和2年に開設することについて、平成31年3月に役員会で決定し、文部科学省に設置申請を行い、令和元年9月に設置が認められました。既存の工学部情報工学コースを核として、数学・統計学などの基礎学問分野や医療・生命科学及び社会・観光学分野を中心としたデータサイエンスの教育研究組織を加え、理数系の学力・素養や、当該分野への関心と他分野への探究心を持つ多様な学生を受け入れ、情報科学（インフォメーションサイエンス）とデータ科学（データサイエンス）に精通した人材を養成します。本学部は情報データ科学科の1学科で、インフォメーションサイエンスコースとデータサイエンスコースの2つのコースからなります。



## 研究

### ◆非核化に向けた情報発信及び英文学術誌「J-PAND」の刊行

核兵器廃絶研究センター（RECNA）が編集を行い、創刊した英文学術誌「Journal for Peace and Nuclear Disarmament (J-PAND)」(『平和と核軍縮』誌)については、平成29年12月にオンライン・ジャーナル(無料)として創刊して以降、平成30年5月に第1巻第1号、12月に第1巻第2号が刊行され、平成30年度末時点で、閲覧数が当初の見込みを大きく上回りました。

さらに、J-PANDから「核兵器禁止条約」及び「核抑止」に関するものを集めて邦訳し、一般市民や専門家を対象としたRECNA叢書4号として「核兵器禁止条約の時代：核抑止論をのりこえる」(山口響監修)を平成31年3月に発刊しました。

#### ▶英文学術誌「J-PAND」

|               |     |
|---------------|-----|
| 閲覧数：4000件以上   | 2論文 |
| 3000以上4000件未満 | 2論文 |
| 2000以上3000件未満 | 2論文 |
| 1000以上2000件未満 | 6論文 |



**当初見込※を大きく上回る閲覧数** 想定以上に UP!!  
 (※1年間で閲覧数が約1000件の論文が数本程度を想定)  
 代表的な核問題学術誌と比較しても遜色ないダウンロード数

### ◆BSL-4施設の建設工事に着手

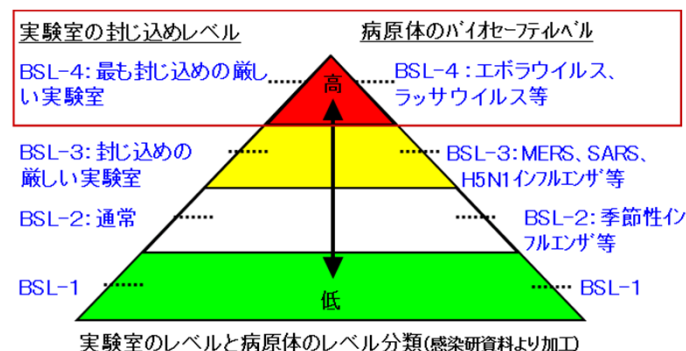
平成30年12月、国際的に脅威となっている感染症対策を強化し、人類の安全・安心の向上に寄与するため、高度な安全設備を備えた実験施設（BSL-4施設）の建設工事に着手しました（令和3年度竣工予定）。

エボラウイルス等の病原性が強く治療法が確立していないBSL-4病原体を取り扱うためには、高度な安全設備を備えたBSL-4施設が必要ですが、現在我が国では、研究及び人材育成を目的とした施設が稼働していません。我が国における感染症対策を強化するため、長崎大学における感染症研究の卓越した実績を基盤に、国、地元自治体や他の研究機関等とも連携して、感染症の仕組みの解明やワクチン・治療薬開発等の研究及び人材育成を目的とした国内初のBSL-4施設を中核とした感染症研究拠点の形成を進めています。

今後引き続き、施設の安全性の確保に向けた取組を進めるとともに、本計画に皆様の御理解を頂き、また地域の発展にも貢献出来るよう取り組んでいきます。



外観イメージ



## 平成30年度 主な教育研究活動

### ◆総務省マグロ養殖基地化を実現するIoTシステムの実証事業が成功裏に完了

海洋未来イノベーション機構は平成30年度総務省IoTサービス創出支援事業として実施した、五島・マグロ養殖基地化を実現するIoTシステムの実証事業を成功裏に完了した。（責任者：山本郁夫教授）尚、同実証事業は長崎大学大学院工学研究科、水産・環境科学総合研究科、佐世保高専、五島市、長崎県、公財ながさき地域政策研究所、KDDI、システムファイブ等地域企業、漁協、養殖業者の協力を得て行いました。

開発されたシステムは、空撮用飛行ロボットで養殖海域を広域撮影し、海面の色に異常があれば採水用飛行ロボット（AKABOT）で水面から1, 3, 5mの深さの海水を同時採水し、陸上に運ぶ。次に採水した海水から有害プランクトンをパソコンに搭載された人工知能が判別し、検出数に応じて危険度を色分けしたマップを養殖関係者にメール送信します。長崎県五島市で同システムの実証試験を行い、採水・検査・通知が15分以内で行えることを確認しました。マグロは通常の魚種に比べ赤潮に対して脆弱で、本システムにより速やかに赤潮情報が提供でき対策が取りやすくなります。



## 産学連携

### ◆株式会社大島造船所との包括的連携に関する協定を締結

平成30年10月12日、長崎大学は大島造船所との間で、「国立大学法人長崎大学と株式会社大島造船所との包括的連携に関する協定」締結の調印式を執り行いました。

本協定は、長崎大学と大島造船所とが多面的な連携の下、研究開発、人材交流、教育・育成、地域・社会貢献、環境保全等の分野で相互に協力し、高度人材の育成、科学技術の振興および産業と社会の発展に寄与することを目的として締結したもので、具体的には長崎大学に寄附講座を設置し、船舶海洋工学関連人材の育成や、関連する研究・開発、地域貢献などで双方が協力していくこととなりました。

調印式では、河野学長が「地域に基盤を置く総合大学として、地域のニーズに寄り添いつつ、教育研究の成果を地域に還元し、グローバル化時代における地方創生の原動力となるよう、また、長崎県全体がさらなる盛り上がりを見せ、発展させていきたい。」、大島造船所の南代表が「世界を相手に産業力をつけていき、そのために長崎大学に優秀な人材を輩出していただき、連携協力して、長崎県の発展に貢献していきたい。」と述べました。

今後は、幅広い分野において連携を強化していくことにより、長崎県の発展に向けた地方創生への貢献が期待されます。



記者会見場写真（左から 南代表、河野学長）

## 平成30年度 主な教育研究活動

### ◆塩野義製薬株式会社との包括的連携に関する協定を締結

平成31年2月28日、長崎大学は塩野義製薬株式会社との間で、「国立大学法人長崎大学と塩野義製薬株式会社との包括的連携に関する協定」の締結式を執り行いました。

本協定は、両者が持続的かつ発展的に連携を推進することにより、長崎大学の学術研究及び教育活動の活性化と塩野義製薬株式会社の研究開発業務の強化、また、オープンイノベーション型産学連携を推進することを目的に締結したものです。具体的には、長崎大学熱帯医学研究所に共同研究部門として「シオノギグローバル感染症連携部門」を設置し、マラリアに対する創薬研究を加速推進いたします。当部門では、マラリアの生活環および宿主側の防御機構の解明など、マラリアの予防、診断および治療に必要な研究に5年間取り組み、その知見を基に革新的な新薬の創製を目指します。

締結式では、河野学長が「治療薬開発というゴールに到達するまでには、容易ではない道のりが続くことが予想されますが、成果をあげられれば、世界の人類の未来に大きく貢献できるものであり、全力を挙げて、取り組みに邁進してまいります。」、手代木社長が「日本初のイノベーションで一日にも早く薬を届けてマラリア撲滅に寄与したい。」と述べました。

今後は、国内外の産官学連携による新たなオープンイノベーション拠点の核となり、マラリア撲滅を目指したプラットフォームを構築し、「医学の発展」と「最も良くすり」の継続的な提供を通じて、社会の持続可能な成長と世界中の人々の健康への貢献が期待されます。



協定書を掲げる社長と学長（河野学長、手代木社長）

## その他

### ◆「長崎大学ヘルシーキャンパスプロジェクト」始動

平成30年7月6日、「長崎大学ヘルシーキャンパス・キックオフイベント」が開催され、約200人の学生・教職員が講演に耳を傾けました。

「ヘルシーキャンパス」とは、学生や教職員の健康増進と研究成果の還元を通じて、アカデミアとして健康長寿社会に貢献しようとする大学の取り組みです。当日は、鈴木大地スポーツ庁長官、サッカーJリーグV・ファーレン長崎の高田明社長、園田裕史大村市長、沢水清明長崎県福祉保健部長などが講演や座談などを行い、非常に豪華なキックオフイベントとなりました。

#### 目標

学生・教職員の心身の健康づくりを増進し、元気に生き生き学び・働く環境を創造することで、豊かな生活の確立を促し、変革の時代を勝ち抜く大学組織の強化を目指す。

- 健康づくりのための運動実施
- 食生活改善
- 健康への意識向上
- 健康環境の向上

#### 行動

- 平成30年7月 学長による健康宣言
- スモークフリーキャンパスの実施
  - ・令和元年8月1日 敷地内全面禁煙
  - ・令和2年4月1日以降、敷地内への喫煙に関連する物品の持ち込み及び所持の禁止を目標
- メンタルヘルスチェックの対象学年の拡大
- ヘルシーランチ開発（大学生協と連携）



#### 期待される効果

学生・教職員の生活の質の向上、大学の生産性の向上（就職率・研究力向上、休退学・休職者数・自殺者の減少）



## 平成30年度 主な教育研究活動

### ◆原爆後障害医療研究所の折田真紀子助教が復興大臣より感謝状

平成30年7月5日、原爆後障害医療研究所（原研）の折田真紀子助教に吉野正芳復興大臣から感謝状が贈呈されました。原研の高村昇教授、折田真紀子助教らのグループは、平成23年3月に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故後、福島での復興支援活動を続けてきました。本学が復興推進拠点を設置している福島県川内村と富岡町でこれまで実施してきた復興支援活動及び被ばく医療学分野の研究活動の成果がこのたび評価され、復興大臣より折田助教に感謝状が贈呈されたものです。

今後も本学は、環境放射能評価や住民の放射線に対するリスク認識の実態をもとにした地域保健活動や放射線に関する住民とのリスクコミュニケーション、また、被ばく医療学分野の人材育成の取り組みを継続していく予定です。



### ◆よさこい部「突風」、YOSAKOIさせば祭りで大賞

よさこい部「突風」が平成30年10月23日、「第21回YOSAKOIさせば祭り」（19日～21日）で大賞及び

青春グランプリYOSAKOIソーラン祭会長賞を受賞した報告をするため、河野学長を表敬訪問しました。西日本最大級の本イベントで大賞を受賞するのは、9年ぶり3度目の快挙です。

河野学長から感想を尋ねられると、代表の宮崎健太郎さん（教育学部3年）が「一人ひとりが輝けるように心がけて取り組んできたことが、観ていただいた方々に伝わった」と述べました。

また、毎年踊りと衣装を変えるという話題では、河野学長が「（衣装の）『突風』を書かせてもらえんね」と気さくに応じるなど、しばらく談笑した後、普段練習している中部講堂の前で集合写真を撮って喜びを分かち合いました。



### ◆「ながさき海援隊」が平成30年度ボランティア活動奨励賞を受賞

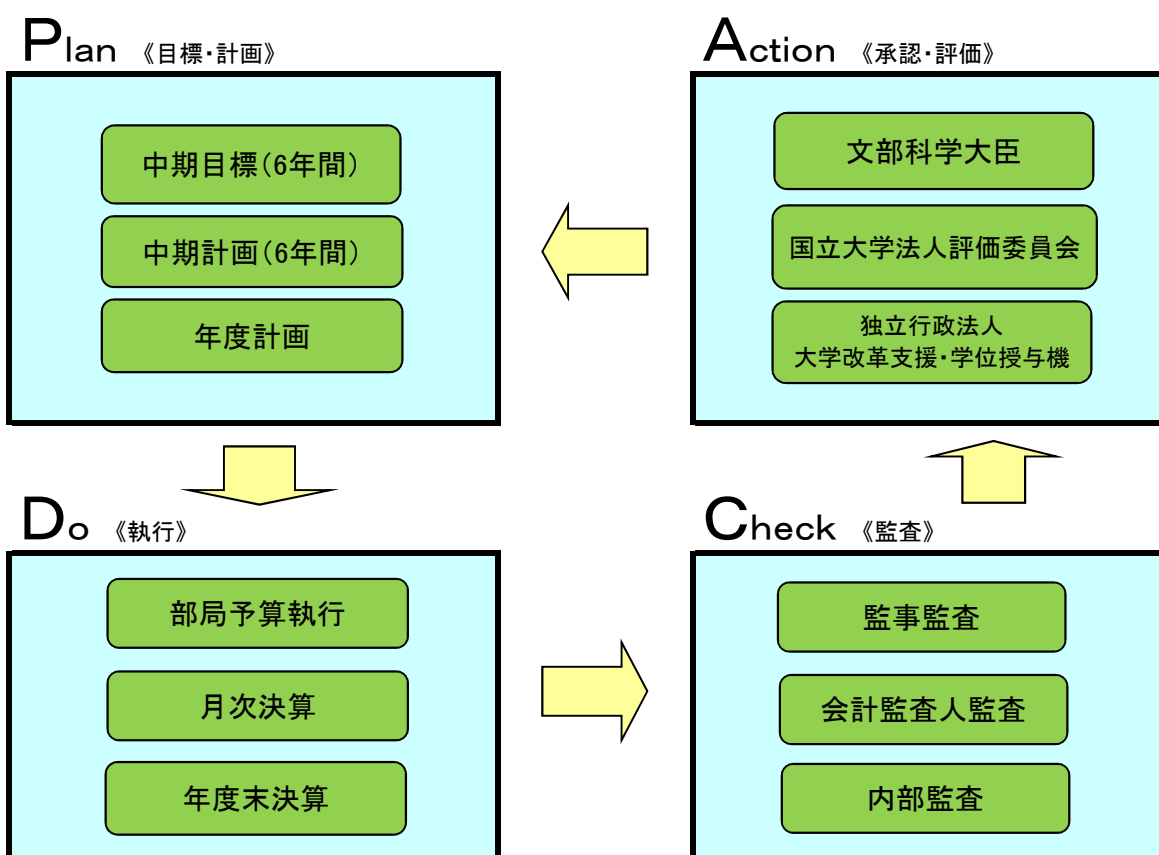
長崎大学「ながさき海援隊」（代表：山園大輝、大学生メンバー：24名）が、公益社団法人長崎ボランティア振興基金（会長：中村法道県知事）から平成30年度ボランティア活動奨励賞を受賞しました。県内から4団体が表彰されましたが、海援隊以外の3団体はいずれも地域で長年活動された団体でした。ながさき海援隊は、若者のボランティア活動として地域社会に大きく貢献した功績が認められての受賞となりました。表彰式は、平成30年10月21日に長崎県庁内で行われました。



# 平成30年度 決算

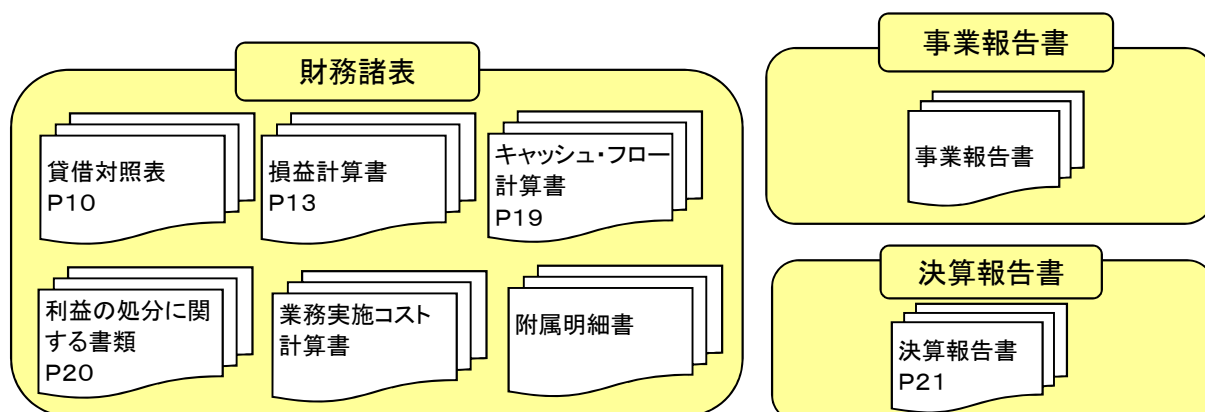
## 国立大学法人会計のしくみ ①

- ・国立大学法人は、大学の基本理念や特性を踏まえた6年間の中期目標を達成するため、具体的に計画した中期計画及び年度計画に基づいて大学運営を行っています。
- ・国立大学法人は、国立大学法人会計基準を基に各会計処理を行っており、複式簿記を採用しています。その結果として財政状態や運営状況を明らかにした財務諸表を年度末に作成しています。
- ・作成された財務諸表は、事業報告書及び決算報告書を添え、監事並びに会計監査人の監査を受けた後、6月末日までに文部科学大臣へ提出します。
- ・文部科学大臣は、提出された財務諸表等の承認を行います。また、中期目標に掲げた目標を達成するための中期計画及び年度計画が遂行されているかを総合的に評価します。



### 【年度末決算時に必要な提出書類】

毎事業年度終了後、文部科学大臣へ提出する書類は下記のとおりです。



# 平成30年度 決算

## 国立大学法人会計のしくみ ②

国立大学法人会計は、企業会計とは多少異なる会計処理を行っており、通常の運営を行った場合、損益が均衡する仕組みとなっております。以下で主な特徴を説明します。

### 1. 受け入れたものは、一度負債として計上される！

受け入れを行った運営費交付金、学生納付金、補助金、寄附金、受託研究費等は、すぐに損益計算書上の「収益」とはなりません。

本学が、国や学生、寄付者の皆様に対して、サービスの提供等、行わなければならない「義務」を負ったということから、貸借対照表上の「負債（流動負債）」として計上します。

（流動負債例：運営費交付金債務、授業料債務、寄附金債務 等）

貸借対照表

| 資産     | 負債     |
|--------|--------|
| 《固定資産》 | 《固定負債》 |
|        | 《流動負債》 |
| 《流動資産》 | 授業料債務  |
| 現金及預金  | 100    |
| 100    | 純資産    |

《仕訳例》 現金及預金100 / 授業料債務100

### 2. 資産を取得したら、流動負債から固定負債へ振り替える！

資産を購入した時には、受け入れ時に流動負債として計上した〇〇債務を、固定負債である資産見返〇〇へ振り替えます。

（固定負債例：資産見返運営費交付金等、資産見返寄附金 等）

貸借対照表

| 資産         | 負債          |
|------------|-------------|
| 《固定資産》     | 《固定負債》      |
| 工具器具備品     | 資産見返運営費交付金等 |
| → 0 → 60   | → 0 → 60    |
| 《流動資産》     | 《流動負債》      |
| 現金及預金      | 授業料債務       |
| ← 100 → 40 | ← 100 → 40  |
|            | 純資産         |

《仕訳例》 工具器具備品60 / 現金及預金60  
 授業料債務60 / 資産見返運営費交付金等60

### 3. 資産の減価償却や費用の発生に併せて負債の収益化を行う！

#### 固定負債の収益化！

資産取得時において、固定負債に振り替えたもの（資産見返〇〇負債）は、資産価値を減少させる減価償却費と同額を収益勘定（資産見返負債戻入）へ振り替えます。

《仕訳例》 研)減価償却費10 / 減価償却累計額10  
 資産見返運営費交付金等10 / 資産見返運営費交付金等戻入10

#### 流動負債の収益化！

流動負債については、費用が発生した相当額を流動負債から収益勘定へ振り替えます。

（収益勘定例：運営費交付金収益、授業料収益、寄附金収益 等）

《仕訳例》 教)消耗品費40 / 現金及預金40  
 授業料債務40 / 授業料収益40

貸借対照表

| 資産        | 負債          |
|-----------|-------------|
| 《固定資産》    | 《固定負債》      |
| 工具・器具備品   | 資産見返運営費交付金等 |
| 60        | ← 60 → 50   |
| 減価償却累計額   | 《流動負債》      |
| ← 0 → ▲10 | 授業料債務       |
| 《流動資産》    | ← 40 → 0    |
| 現金及預金     | 純資産         |
| ← 40 → 0  |             |

損益計算書

| 費用       | 収益            |
|----------|---------------|
| 《経常費用》   | 《経常収益》        |
| 教育経費     | 授業料収益         |
| (消耗品費)   | ← 0 → 40      |
| → 0 → 40 | 資産見返運営費交付金等戻入 |
| 研究経費     | ← 0 → 10      |
| (減価償却費)  |               |
| → 0 → 10 |               |

# 平成30年度 決算

## 決算の概要

### ○貸借対照表 P10

(単位:億円)

|      |             |            |
|------|-------------|------------|
| 財政状態 | 資産<br>1,266 | 負債<br>544  |
|      |             | 純資産<br>721 |

貸借対照表って何？

貸借対照表とは、決算日(3/31)における、財政状態を明らかにするものです。

何がわかるの？

本学が、今年度の3/31現在で資産をどれだけ保有し、負債をどれだけ抱え、その結果、純資産がどのようになっているのかわかります。

### ○損益計算書 P13

|      |            |           |
|------|------------|-----------|
| 活動状況 | 費用<br>569  | 収益<br>576 |
|      | 当期総利益<br>7 |           |

損益計算書って何？

損益計算書とは、一会計期間における本学の運営状況を示したものです。

何がわかるの？

金額面から見た今年1年間の活動内容がわかります。

《例》

- ・費用では教育経費でいくら使用したのか？
- ・収益では授業料収益をいくらあげることが出来たのか？
- ・最終的には損益均衡を原則としつつも自助努力によりあげた利益額がわかります。

### ○キャッシュ・フロー計算書 P19

|       |          |     |
|-------|----------|-----|
| 資金の流れ | 業務活動     | 57  |
|       | 投資活動     | -27 |
|       | 財務活動     | -22 |
|       | 資金増加・減少額 | 7   |
|       | 資金期首残高   | 40  |
|       | 資金期末残高   | 47  |

キャッシュ・フロー計算書って何？

キャッシュ・フロー計算書とは、一会計期間におけるキャッシュ(お金)のフロー(流れ)を一定の活動区分別に表したものです。

何がわかるの？

固定資産取得や借入・返済等の現金の受払が表示されているので、貸借対照表や損益計算書からは読み取ることができない資金の流れの状況がわかります。

### ○国立大学法人等業務実施コスト計算書

|      |           |      |
|------|-----------|------|
| 国民負担 | 業務に要したコスト | 控除額  |
|      | 579       | -392 |
|      | 業務実施コスト   | 187  |

業務実施コスト計算書って何？

業務実施コスト計算書とは、本学の業務運営を行うにあたり、納税者である国民の皆様からどれだけ負担をしていただいたのかわかります。

### ○決算報告書 P21

|          |     |     |     |    |
|----------|-----|-----|-----|----|
| 収入・支出の状況 |     | 予算額 | 決算額 | 差額 |
|          | 収入  | 570 | 601 | 31 |
|          | 支出  | 570 | 570 | 0  |
|          | 収支差 | 0   | 30  | 30 |

決算報告書って何？

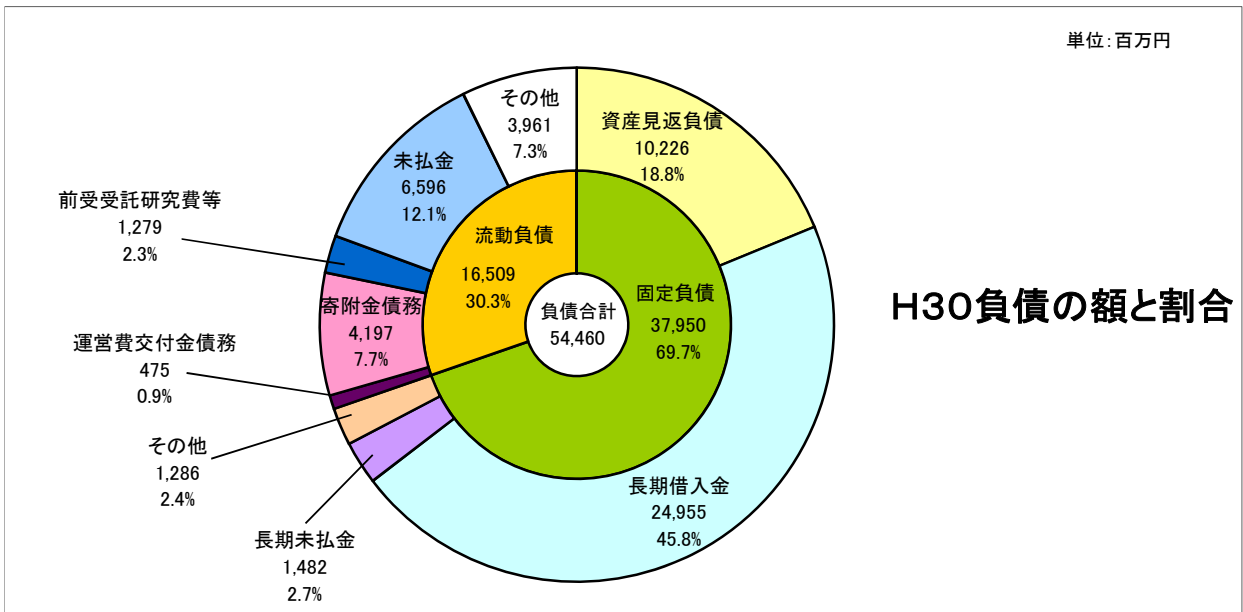
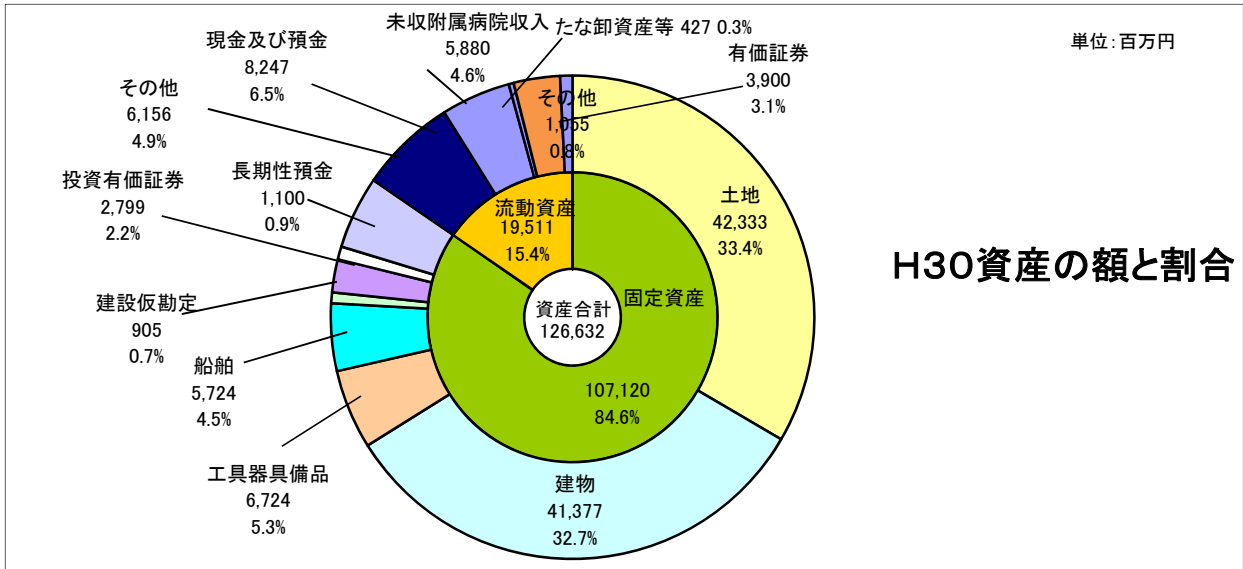
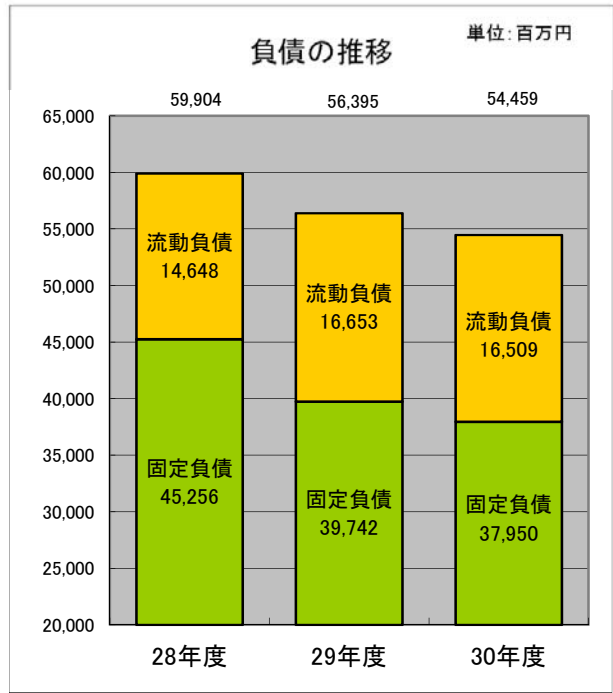
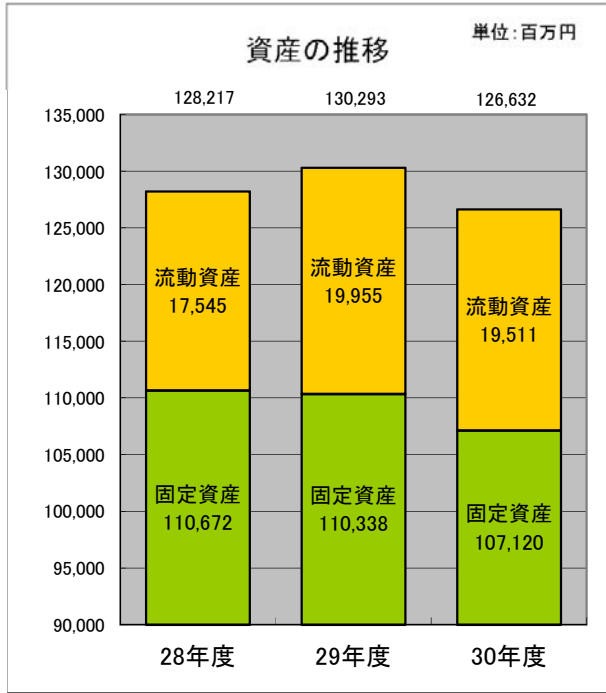
決算報告書とは、1年間の収入及び支出の状況を国の会計ルールに準じた予算区分に応じて作成したものです。年度計画時に立てた収入と支出の見込額(予算額)がどのような結果(決算額)であったかを示したものです。

何がわかるの？

計画(予算)に対する結果(決算)や、予算区分に応じた執行状況がわかります。



# 平成30年度 決算



# 平成30年度 決算

## △貸借対照表の主な増減要因

・前年度と比較した主な増減要因は以下のとおりです。

| 資産の部   |            | 126,632 百万円 | ▲ 3,661 百万円 減少 |
|--|------------|-------------|----------------|
| 土地   | 42,333 百万円 |             | ▲ 192 百万円 減少   |
| 建物   | 41,377 百万円 |             | ▲ 3,253 百万円 減少 |
| 工具器具備品   | 6,724 百万円  |             | ▲ 661 百万円 減少   |
| <p>◎土地・建物・工具器具備品とは、本学が行わなければならない教育・研究・診療等の事業に必要な基盤となる資産のことです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地については、多以良地区(長崎市三重地区)の地価の下落に応じて減損処理を行った結果減少しております。</li> <li>・建物については、当期は大規模な建物の取得はなく、減損処理及び減価償却による減少により、最終的には減少しました。</li> <li>・工具器具備品については、大型設備の取得が少なく、除却処理及び減価償却による減少により、最終的には減少しました。</li> </ul> |            |             |                |
| 建設仮勘定  | 905 百万円    |             | 568 百万円 増加     |
| <p>◎建設仮勘定とは、建物等の建設を行う場合において建物等が完成するまでに要した支出額を計上する勘定のことです。建物等が完成した際には、この建設仮勘定から適切な勘定(建物等)に振り替えなければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院のMFICUや、BSL-4施設の建設工事進捗により増加しております。</li> </ul>  |            |             |                |
| 長期性預金  | 1,100 百万円  |             | 1,100 百万円 増加   |
| <p>◎長期性預金とは、1年を超えて満期が到来する預金のことです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期末時点では定期預金(1年を超えて満期が到来するもの)での資金運用を行ったため、大幅に増加しました。</li> </ul>  |            |             |                |
| 現金及び預金   | 8,247 百万円  |             | 3,331 百万円 増加   |
| <p>◎貸借対照表に計上される現金及び預金(3/31現在)は、翌期に支払いに充てる予定の未払金と寄附金等の外部資金の繰越額がそのほとんどを占めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期末時点では定期預金(1年以内に満期が到来するもの)での資金運用を行ったため、大幅に増加しました。</li> </ul>  |            |             |                |
| 負債の部   |            | 54,460 百万円  | ▲ 1,935 百万円 減少 |
| 資産見返負債(「資産見返運営費交付金等」など)  | 10,226 百万円 |             | ▲ 121 百万円 減少   |
| <p>◎資産見返負債とは、運営費交付金、授業料、補助金及び寄附金等により固定資産を取得した際に、運営費交付金債務等の財源ごとに計上されている流動負債(〇〇債務)が取り崩されて計上される固定負債のことです。なお、この負債は減価償却が行われる際、減価償却費(費用)と同額が取り崩され資産見返負債戻入(収益)へと計上されます。この処理を行うことで損益が均衡する仕組みとなっており、国立大学法人会計特有の勘定です。</p>  |            |             |                |
| 長期借入金  | 24,955 百万円 |             | ▲ 790 百万円 減少   |
| <p>◎借入金とは、法人化以降、病院の再開発事業を行うにあたり、(独)大学改革支援・学位授与機構から借り入れたものです。3/31現在の債務残高(元本)が長期借入金として計上されていますが、翌期に返済を行う額は流動負債(「一年以内返済予定長期借入金」※P10では「その他」に計上)へ計上されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院不要建物の解体工事や医療設備更新のための借入により増加した一方で、翌期の返済予定額がそれを上回ったことにより減少しました。</li> </ul>                                 |            |             |                |
| 長期未払金  | 1,482 百万円  |             | ▲ 801 百万円 減少   |
| <p>◎長期未払金とは1年を超えて支払い義務を負う未払金のことをいい、令和元年度以降に支払うべきリース債務や割賦金などが計上されます。</p>  |            |             |                |
| 運営費交付金債務   | 475 百万円    |             | 362 百万円 増加     |
| <p>◎国から運営費交付金を交付されたときは、本学が行うべきサービスの提供等を任されたものとして、その相当額を運営費交付金債務として負債に計上し、業務活動の進行に応じて収益に振り替えることになっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度は業務達成基準を適用した学内プロジェクトの翌期執行分を計上したため、増加しました。</li> </ul>  |            |             |                |
| 未払金  | 6,596 百万円  |             | ▲ 716 百万円 減少   |
| <p>◎貸借対照表に計上される未払金(3/31現在)は、期末における固定資産の取得(工事の竣工や工具器具備品の納品等)の多寡等により大きく変動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期末における固定資産の取得規模が前年度よりも減少(前年度:練習船「長崎丸」など)したこと等により、減少しました。</li> </ul>  |            |             |                |

# 平成30年度 決算

## 平成30年度 損益計算書の概要

### ○損益計算書(要約)

(単位:百万円)

|                             | 29年度   | 30年度   | 増減額     |
|-----------------------------|--------|--------|---------|
| <b>A &lt;経常費用&gt;</b>       | 55,824 | 56,851 | 1,027   |
| 業務費                         | 54,126 | 55,401 | 1,275   |
| 教育経費                        | 2,415  | 2,502  | 87      |
| 研究経費                        | 2,719  | 2,650  | ▲ 69    |
| 診療経費                        | 17,743 | 18,737 | 994 ①   |
| 教育研究支援経費                    | 420    | 480    | 60      |
| 受託研究費等                      | 3,189  | 3,167  | ▲ 22    |
| 役員人件費                       | 183    | 158    | ▲ 25    |
| 教員人件費                       | 13,820 | 13,954 | 134 ②   |
| うち退職給付費用                    | 618    | 795    | 177     |
| 職員人件費                       | 13,633 | 13,749 | 116 ③   |
| うち退職給付費用                    | 743    | 670    | ▲ 73    |
| 一般管理費                       | 1,391  | 1,227  | ▲ 164   |
| 財務費用                        | 297    | 211    | ▲ 86    |
| 雑損                          | 8      | 11     | 3       |
| <b>B &lt;経常収益&gt;</b>       | 57,295 | 57,591 | 296     |
| 運営費交付金収益                    | 15,933 | 15,454 | ▲ 479 ④ |
| 学生納付金収益                     | 5,181  | 5,168  | ▲ 13    |
| 附属病院収益                      | 28,864 | 29,797 | 933 ⑤   |
| 受託研究等収益等                    | 3,230  | 3,198  | ▲ 32    |
| 寄附金収益                       | 909    | 962    | 53      |
| 施設費収益                       | 17     | 61     | 44      |
| 補助金等収益                      | 883    | 796    | ▲ 87    |
| 資産見返負債戻入                    | 1,360  | 1,173  | ▲ 187   |
| 財務収益                        | 18     | 47     | 29 ⑥    |
| 雑益                          | 895    | 930    | 35      |
| <b>C &lt;経常損益&gt;B-A</b>    | 1,471  | 740    | ▲ 731   |
| <b>D &lt;臨時損失&gt;</b>       | 318    | 118    | ▲ 200 ⑦ |
| 減損損失                        | 295    | 0      | ▲ 295   |
| その他(除売却損等)                  | 21     | 118    | 97      |
| <b>E &lt;臨時利益&gt;</b>       | 27     | 82     | 55      |
| 固定資産除売却関連                   | 19     | 60     | 41      |
| その他                         | 7      | 22     | 15      |
| <b>F &lt;当期純損益&gt;C-D+E</b> | 1,180  | 704    | ▲ 476   |
| <b>G 前中期目標期間繰越積立金取崩額</b>    | 41     | 15     | ▲ 26    |
| <b>H 目的積立金取崩額</b>           | 0      | 0      | 0       |
| <b>I &lt;当期総損益&gt;F+G+H</b> | 1,221  | 719    | ▲ 502 ⑧ |

※百万円未満は切り捨てのため、それぞれの合計額は一致しない場合があります。

損益計算書とは、一会計期間における本学の運営状況を示したものです。

### A【経常費用】

①診療稼働の増に連動して、医薬品・診療材料を多く消費したことなどにより**診療経費**が増加しました。

②**教員人件費**については、退職給付費用の増加により増加しました。

③**職員人件費**については、病院の看護師の増員などの理由により増加しました。

その結果、「経常費用」総額で約568億円となり、対前年度比で約10億円増加しました。

### B【経常収益】

④運営費交付金により実施するプロジェクトの経費を来年度に繰り越したため、今年度の**運営費交付金収益**が減少しました。

⑤診療に関して、DPC機能評価係数の上昇したことに加え、入院期間の適正化や高度な手術の件数増など、増収策を実施したことにより、**附属病院収益**が大幅に増加しました。

⑥積極的な資産運用を行ったことにより**財務収益**が増加しました。

その結果、総額で約575億円となり、対前年度比で約3億円増加しました。

### D【臨時損失】⑦

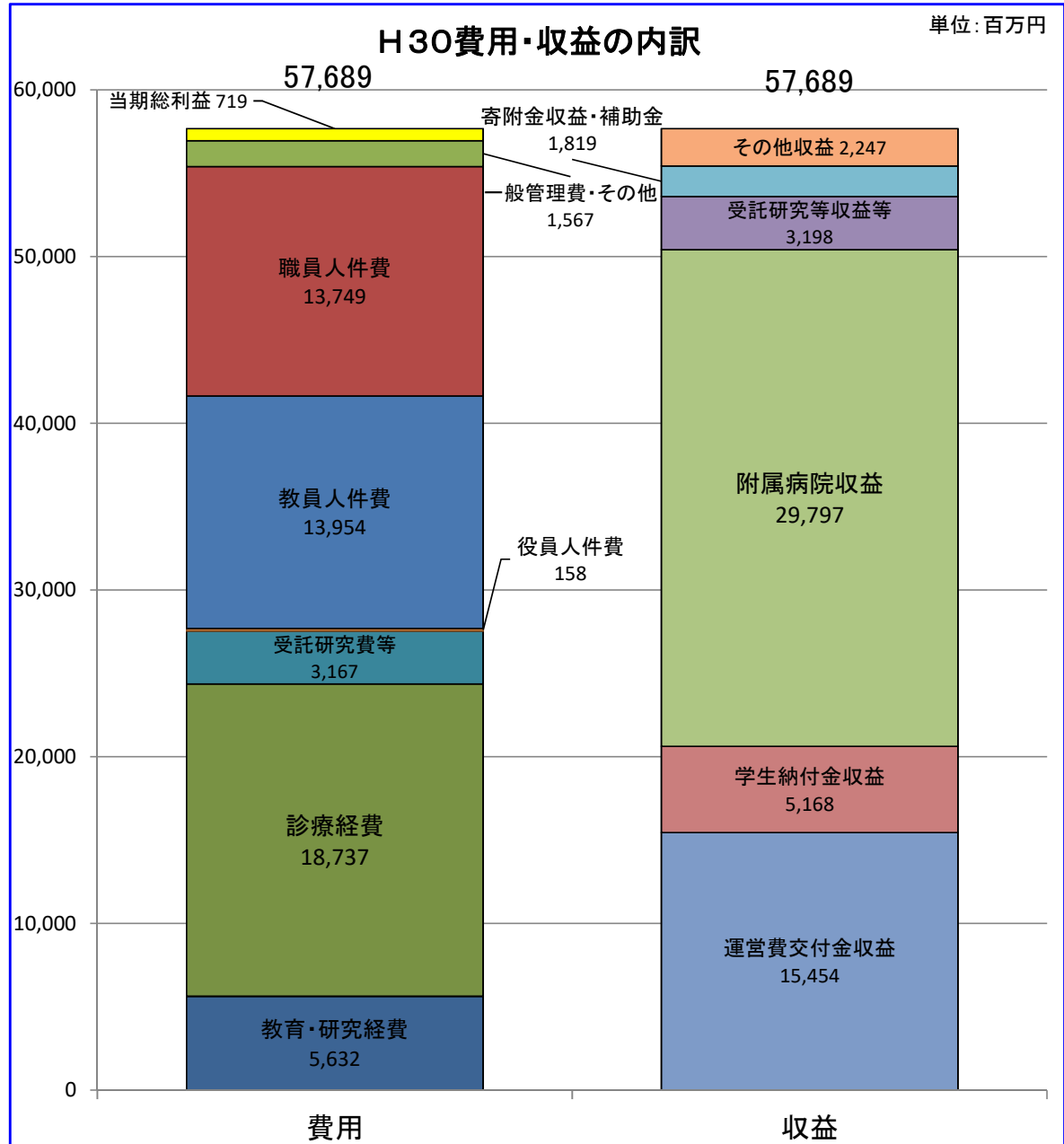
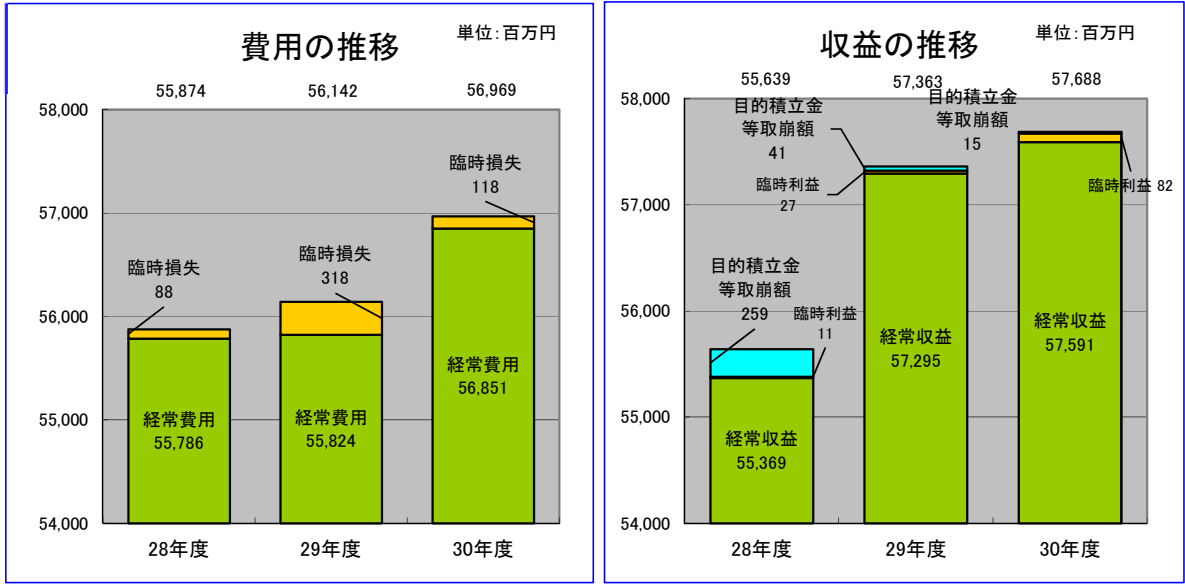
30年度は、前年度のように解体する建物(中央診療棟)の減損処理を行っていないため臨時損失は大幅に減少しています。

### I【当期総損益】⑧

全体の費用(経常費用、臨時損失)を収益(経常収益、臨時利益、前中期目標期間繰越積立金取崩額)が上回ったことにより平成30年度は719百万円の「**総利益**」となりました。



# 平成30年度 決算



# 平成30年度 決算

## △損益計算書の主な増減要因

・前年度と比較した主な増減要因は以下のとおりです。

|           |                   |                   |
|-----------|-------------------|-------------------|
| <b>費用</b> | <b>56,970 百万円</b> | <b>827 百万円 増加</b> |
|-----------|-------------------|-------------------|

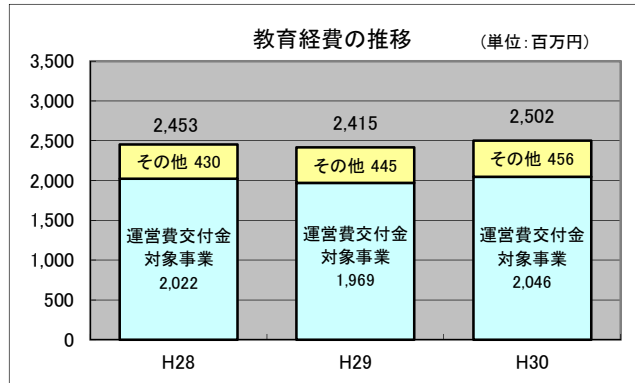
|               |                   |                     |
|---------------|-------------------|---------------------|
| <b>〈経常費用〉</b> | <b>56,851 百万円</b> | <b>1,027 百万円 増加</b> |
|---------------|-------------------|---------------------|

|             |                  |                  |
|-------------|------------------|------------------|
| <b>教育経費</b> | <b>2,502 百万円</b> | <b>87 百万円 増加</b> |
|-------------|------------------|------------------|

◎教育経費とは、学生等に対し行われる教育に要する経費のことです。  
具体的には、入学試験、正課教育、就職準備活動、入・卒業式などがあげられます。

・教育経費については、練習船「長崎丸」のメンテナンスや講義棟などの教育施設の修繕を実施したこと等により、前年度よりも増加しました。

※運営費交付金対象事業とは、運営費交付金及び学生納付金、附属病院収入等を財源とした支出のことです。  
※その他とは、上記以外の外部資金等を財源とした支出のことです。

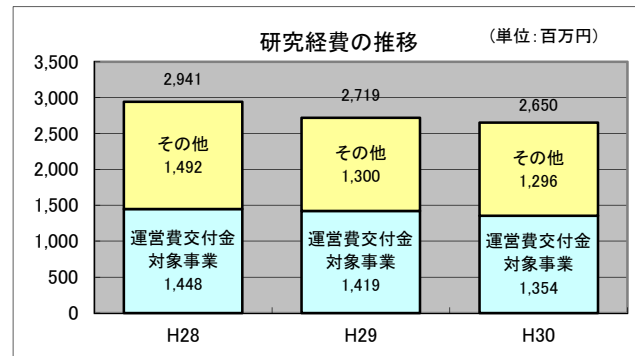


|             |                  |                    |
|-------------|------------------|--------------------|
| <b>研究経費</b> | <b>2,650 百万円</b> | <b>▲ 69 百万円 減少</b> |
|-------------|------------------|--------------------|

◎研究経費とは、研究に要する経費のことです。

・研究経費については、研究用資産の老朽化に伴い減価償却費が減少した等の影響により、前年度よりも減少しました。

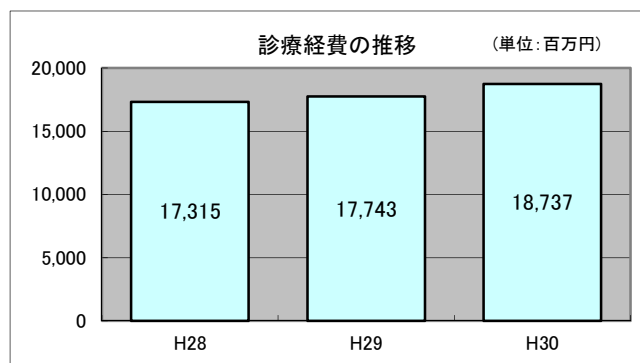
※運営費交付金対象事業とは、運営費交付金及び学生納付金、附属病院収入等を財源とした支出のことです。  
※その他とは、上記以外の外部資金等を財源とした支出のことです。



|             |                   |                   |
|-------------|-------------------|-------------------|
| <b>診療経費</b> | <b>18,737 百万円</b> | <b>994 百万円 増加</b> |
|-------------|-------------------|-------------------|

◎診療経費とは、診療報酬の獲得が予定される行為に要する経費のことです。

・医薬品費・医療材料費が診療稼働に連動して増加、また高価な医薬品等の使用が増えたため、前年度よりも増加しました。



# 平成30年度 決算

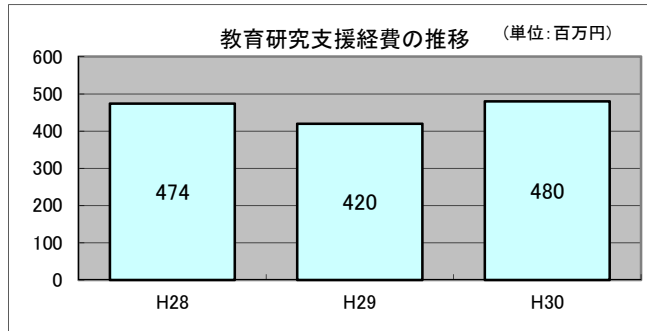
## 教育研究支援経費

480 百万円

60 百万円 増加

◎教育研究支援経費とは、大学全体の教育及び研究の双方を支援するために設置された施設において、学生や教員が利用するものの運営に要する経費のことです。  
本学では、附属図書館及びICT基盤センターの運営に要する経費を計上しています。

・教育研究支援経費については、電子ジャーナル購読等が増加したため、前年度よりも増加しました。



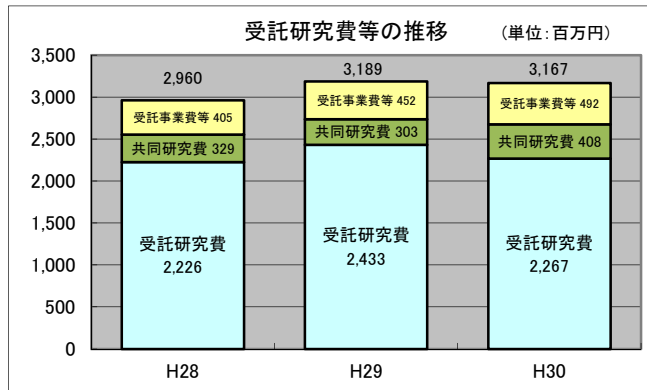
## 受託研究費等

3,167 百万円

▲ 22 百万円 減少

◎受託研究費等とは、受託研究、共同研究及び受託事業の実施に要する経費のことです。  
なお、この財源にて支給される給与等も含まれます。

・平成30年度は、受託研究の受け入れが減少しましたが、共同研究や受託事業等の受け入れが増加したことにより、それぞれの実施経費が増減しております。



## 役員人件費

158 百万円

▲ 25 百万円 減少

## 教員人件費

13,954 百万円

134 百万円 増加

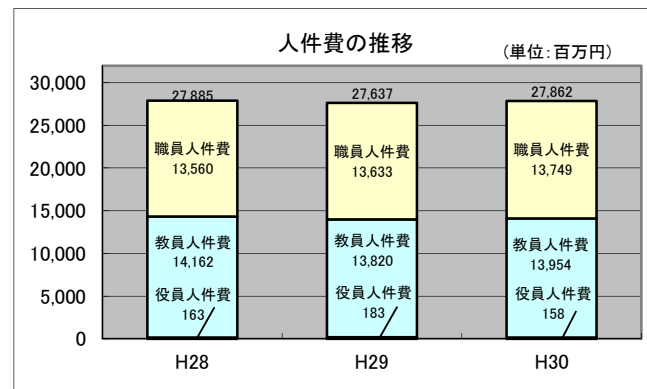
## 職員人件費

13,749 百万円

116 百万円 増加

◎人件費とは、役員、教員及び職員に対し支払われる報酬、給与、賞与、退職手当等のことです。  
なお、受託研究費等を財源として支払われる給与等は含みません。

・人事院勧告による給与水準の引き上げにより、人件費が全体的に増加する中、人件費削減の取組を実施しておりますが、教員人件費については退職給付費用の増加により、職員人件費については、増床に伴う看護師の増員により増加しました。  
一方、役員人件費は退職給付費用の減少により、減少しております。



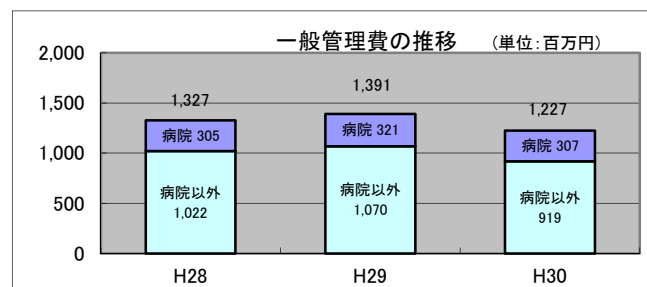
## 一般管理費

1,227 百万円

▲ 164 百万円 減少

◎一般管理費とは、大学全体の管理運営を行うために要する経費のことであり、他の区分に属さない経費は全て計上されます。

・一般管理費については、管理的経費の節減に努めたこと、損害賠償案件が少なかったこと等により、前年度に比べて減少しました。



# 平成30年度 決算

## 収益

57,689 百万円

325 百万円 増加

## 〈経常収益〉

57,591 百万円

296 百万円 増加

### 運営費交付金収益

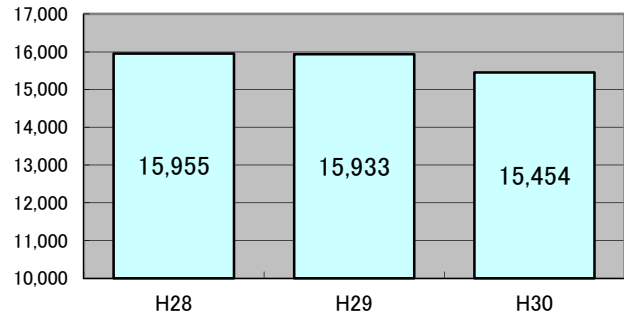
15,454 百万円

▲ 479 百万円 減少

◎運営費交付金収益とは、国から措置された運営費交付金について行うべき事業を行ったことにより収益として計上したものです。  
なお、運営費交付金収益は、国の予算措置額及び資産取得の状況が大きく影響します。

・平成30年度は、プロジェクトの実施経費を来年度へ繰り延べたことにより今年度の交付金収益は減少しています。

運営費交付金収益の推移 (単位:百万円)



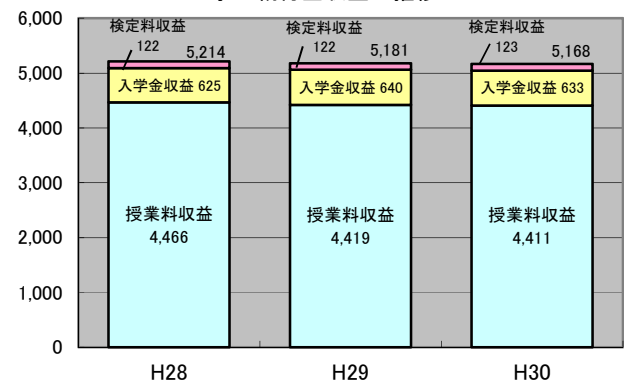
### 学生納付金収益

5,168 百万円

▲ 13 百万円 減少

◎学生納付金収益とは、学生からの授業料、入学金及び検定料について、行うべき事業を行ったことにより収益として計上したものです。  
なお、学生納付金収益は、学生からの納付状況及び資産取得の状況が大きく影響します。

学生納付金収益の推移 (単位:百万円)



### 附属病院収益

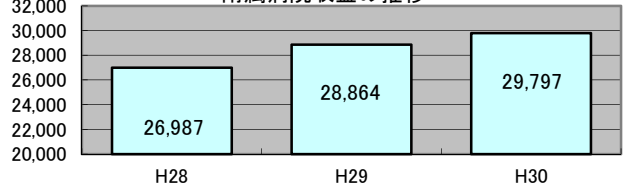
29,797 百万円

933 百万円 増加

◎附属病院収益とは、病院において診療行為を行ったことにより獲得した収益のことです。

・診療稼働について、DPC機能評価係数の上昇に加え、入院期間の適正化や高度な手術件数の増加など経営努力により増加しております。

附属病院収益の推移 (単位:百万円)



### 受託研究等収益等

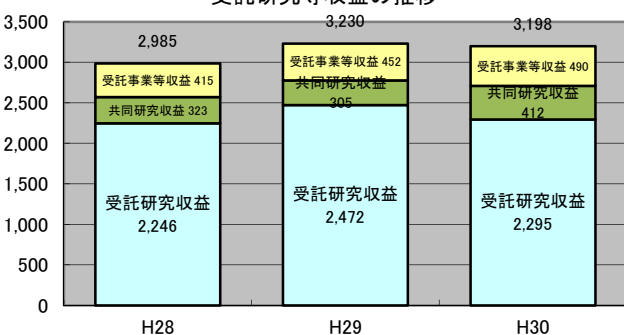
3,198 百万円

▲ 32 百万円 減少

◎受託研究等収益等とは、受託研究、共同研究及び受託事業により得られた収益のことです。  
なお、受託研究等収益等は、受入状況が大きく影響します。

・平成30年度は前年度に比べ受託研究の受入額が減少する一方、共同研究・受託事業等の受入額が増加し、それぞれの収益化額が増減しております。

受託研究等収益等の推移 (単位:百万円)



## 平成30年度 決算

|   |           |              |
|---|-----------|--------------|
| 寄附金収益   | 962 百万円   | 53 百万円 増加    |
| ◎寄附金収益とは、寄附金を財源として執行したもののうち、費用として計上したものと同額が計上されます。  |           |              |
| 施設費収益   | 61 百万円    | 44 百万円 増加    |
| ◎施設費収益とは、国から措置された施設整備費補助金及び(独)大学改革支援・学位授与機構からの交付金により学内の各施設を整備した事業のうち、費用として計上したものと同額が計上されます。   |           |              |
| 補助金等収益  | 796 百万円   | ▲ 87 百万円 減少  |
| ◎補助金等収益とは、国や地方公共団体等から措置された補助金で行った事業のうち、費用として計上したものと同額が計上されます。<br>なお、補助金等収益は、受入額及び資産取得の状況が大きく影響します。  |           |              |
| 資産見返負債戻入  | 1,173 百万円 | ▲ 187 百万円 減少 |
| ◎資産見返負債戻入とは、当期または前期以前において、運営費交付金、授業料、補助金及び寄附金等により固定資産を取得したもののうち、当期に計上される減価償却費(費用)と同額が資産見返〇〇金(例:資産見返運営費交付金等、資産見返寄附金等)から振り替えられて計上されたものです。<br>なお、この処理を行うことで損益が均衡する仕組みとなっており、国立大学法人会計特有の勘定です。 |           |              |
| 〈臨時損失〉  | 118 百万円   | ▲ 200 百万円 減少 |
| 〈臨時利益〉  | 82 百万円    | 55 百万円 増加    |
| ◎臨時損失及び臨時利益とは、大学本来の業務活動とは別に発生した損失及び利益のことです。<br>主に固定資産の売却や除却を行うことで発生します。<br>なお、昨年度は病院の中央診療棟(旧棟)の解体工事着工に伴う減損処理295百万円を行ったことにより、臨時損失が増加していましたが今年度は除却に係る経費を計上しております。                           |           |              |

(参考) 病院セグメントとそれ以外のセグメントの当期総損益の内

(単位: 百万円)

| 区分        | 病院     | 病院以外   | 合計     |
|-----------|--------|--------|--------|
| 経常費用      |        |        |        |
| 業務費       | 33,487 | 21,914 | 55,401 |
| 教育経費      | 63     | 2,440  | 2,503  |
| 研究経費      | 216    | 2,434  | 2,651  |
| 診療経費      | 18,737 | 0      | 18,737 |
| 教育研究支援経費  | -      | 480    | 480    |
| 受託研究費     | 408    | 1,860  | 2,267  |
| 共同研究費     | 49     | 360    | 408    |
| 受託事業費     | 144    | 348    | 492    |
| 人件費       | 13,870 | 13,992 | 27,863 |
| 一般管理費     | 307    | 920    | 1,227  |
| 財務費用      | 179    | 34     | 213    |
| 雑損        | 0      | 11     | 11     |
| 小計        | 33,975 | 22,878 | 56,853 |
| 経常収益      |        |        |        |
| 運営費交付金収益  | 3,380  | 12,075 | 15,455 |
| 学生納付金収益   | -      | 5,169  | 5,169  |
| 附属病院収益    | 29,798 | -      | 29,798 |
| 受託研究収益    | 403    | 1,893  | 2,296  |
| 共同研究収益    | 48     | 365    | 413    |
| 受託事業等収益   | 142    | 348    | 490    |
| 寄附金等収益    | 191    | 772    | 962    |
| 財務収益      | -      | 48     | 48     |
| 雑益等       | 634    | 2,327  | 2,961  |
| 小計        | 34,596 | 22,996 | 57,592 |
| 経常損益      | 621    | 118    | 739    |
| 臨時損失      | 90     | 29     | 119    |
| 臨時収益      | 46     | 37     | 83     |
| 目的積立金取崩額等 | 2      | 13     | 16     |
| 当期総損益     | 580    | 139    | 719    |

※端数処理のため、それぞれの合計額は一致しない場合があります。

### 【病院の当期総利益の 主な要因】

- ・診療稼働について、D P  
C機能評価係数の上昇に加え、入院期間の適正化や高度な手術件数の増加などの経営努力により附属病院収益が増加したこと。

### 【病院以外における当 期総利益の主な要因】

- ・経費の節減により、翌年度以降の経費を蓄えたこと。

# 平成30年度 決算

## 平成30年度 キャッシュ・フロー計算書の概要

キャッシュ・フロー計算書って何？

キャッシュ・フロー計算書とは、一会計期間におけるキャッシュ（お金）のフロー（流れ）を一定の活動区分別に表示したものです。

何がわかるの？

固定資産取得や借入・返済等の現金の受払が表示されているので、貸借対照表や損益計算書からは読み取ることができない資金の流れの状況がわかります。

### ○キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

| I 業務活動によるキャッシュ・フロー                |        | 5,789                             |
|-----------------------------------|--------|-----------------------------------|
| ・運営費交付金収入                         | 15,895 | ・原材料、商品又はサービスの購入による支出 ▲ 21,451    |
| ・学生納付金収入                          | 4,893  | ・人件費支出 ▲ 28,175                   |
| ・附属病院収入                           | 29,417 | ・その他の支出 ▲ 1,490                   |
| ・その他の収入                           | 6,686  | ・国庫納付額 0                          |
| ・預り科研費純増額                         | 13     |                                   |
| II 投資活動によるキャッシュ・フロー               |        | ▲ 2,765                           |
| ・有価証券の売却による収入                     | 8,604  | ・有価証券取得による支出 ▲ 6,199              |
| ・固定資産の売却による収入                     | 22     | ・固定資産の取得による支出 ▲ 3,721             |
| ・施設費による収入                         | 2,201  | ・大学改革支援・学位授与機構への納付による支出 0         |
| ・定期預金の払い戻しによる収入                   | 6,905  | ・定期預金預け入れによる支出 ▲ 10,601           |
| ・利息及び配当金の受取額                      | 23     |                                   |
| III 財務活動によるキャッシュ・フロー              |        | ▲ 2,289                           |
| ・長期借入れによる収入                       | 1,061  | ・大学改革支援・学位授与機構債務負担金の返済による支出 ▲ 351 |
|                                   |        | ・リース債務の返済による支出 ▲ 943              |
|                                   |        | ・長期借入金の返済による支出 ▲ 1,840            |
|                                   |        | ・利息の支払額 ▲ 217                     |
| IV 資金に係る換算差額                      |        | 0                                 |
| V 資金増加額(又は減少額)(I + II + III + IV) |        | 734                               |
| VI 資金期首残高                         |        | 4,012                             |
| VII 資金期末残高(V + VI)                |        | 4,747                             |

※百万円未満は切り捨てのため、それぞれの合計額は一致しない場合があります。

- ・業務活動によるキャッシュ・フロー・・・通常業務の実施により生じた資金の出入りのことです。
- ・投資活動によるキャッシュ・フロー・・・将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資に伴う資金の出入りのことです。
- ・財務活動によるキャッシュ・フロー・・・業務に必要な資金の調達及び返済に係る資金の出入りのことです。
- ・資金期末残高は、貸借対照表中の「現金及び預金」のうち定期預金を除いた額に一致します。

# 平成30年度 決算

## 利益の処分に関する書類の概要

○利益の処分に関する書類(要約)

(単位:円)

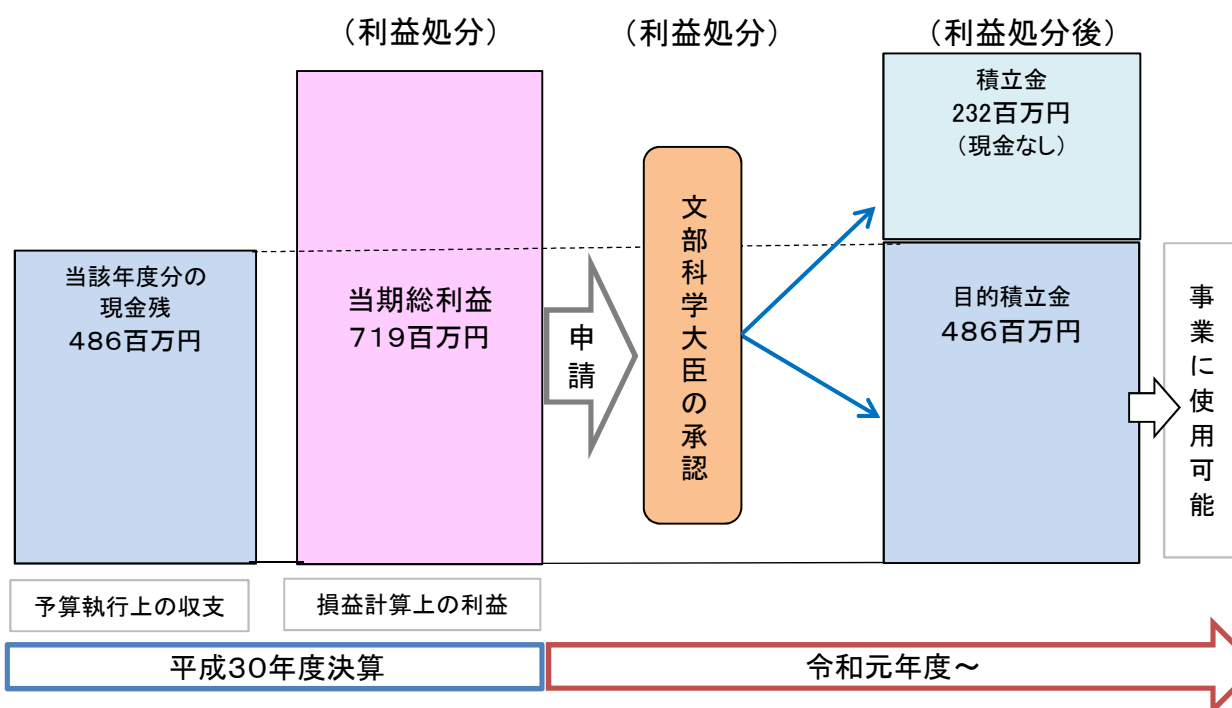
| 区分                           | 金額          |
|------------------------------|-------------|
| I 当期末処分利益                    | 719,050,224 |
| II 利益処分額                     |             |
| 積立金                          | 232,870,414 |
| 教育研究支援及び組織運営改善積立金<br>(目的積立金) | 486,179,810 |

～当期総利益の主な発生要因について～

- ・附属病院において、DPC機能評価係数が上昇したことに合わせ、入院期間の適正化や高度な手術件数を増加させたことなどが奏功したこと。
- ・経費削減努力による。

### 利益処分の流れ

利益が発生した場合は、当該年度分の現金の残高を上限に国の承認を受けて、翌期以降の事業に使用する財源「目的積立金」として繰り越すことができます。一方、現金の残が伴わない利益は「積立金」として整理されます。



※端数処理のため、合計が一致しない場合があります。

# 平成30年度 決算

## 平成30年度 決算報告書の概要

### 決算報告書って何？

決算報告書とは、1年間の収入及び支出の状況を国の会計ルールに準じた予算区分に応じて作成したものです。

### 何がわかるの？

年度計画時に立てた収入と支出の**見込額(予算額)**がどのような**結果(決算額)**であったのかわかります。また、各予算区分に応じた**収入及び支出の執行結果**を見ることが出来ます。

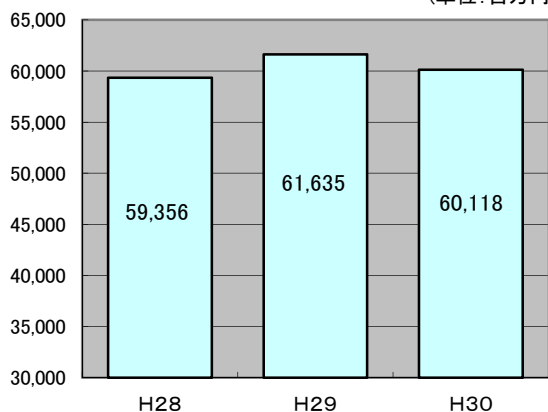
### ○決算報告書(要約)

(単位:百万円)

| 収入                  | 予算額           | 決算額           | 差額           |
|---------------------|---------------|---------------|--------------|
| 運営費交付金              | 15,853        | 16,009        | 156          |
| 施設整備費補助金            | 362           | 329           | ▲ 33         |
| 船舶建造費               | 0             | 0             | 0            |
| 補助金等収入              | 1,905         | 1,147         | ▲ 758        |
| 大学改革支援・学位授与機構施設費交付金 | 41            | 41            | 0            |
| 自己収入                | 32,910        | 34,982        | 2,072        |
| 産学連携等研究収入及び寄附金収入等   | 4,053         | 5,662         | 1,609        |
| 引当金取崩               | 684           | 716           | 32           |
| 長期借入金収入             | 1,062         | 1,062         | ▲ 0          |
| 目的積立金取崩             | 132           | 169           | 37           |
| <b>計</b>            | <b>57,002</b> | <b>60,118</b> | <b>3,116</b> |
| 支出                  | 予算額           | 決算額           | 差額           |
| 業務費                 | 47,239        | 47,622        | 383          |
| 施設整備費               | 1,465         | 1,432         | ▲ 33         |
| 船舶建造費               | 0             | 0             | 0            |
| 補助金等                | 1,905         | 1,147         | ▲ 758        |
| 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等  | 4,053         | 4,509         | 456          |
| 長期借入金償還金            | 2,340         | 2,329         | ▲ 11         |
| 大学改革支援・学位授与機構施設費納付金 | 0             | 0             | -            |
| <b>計</b>            | <b>57,002</b> | <b>57,040</b> | <b>38</b>    |
| <b>収入－支出</b>        | <b>0</b>      | <b>3,078</b>  | <b>3,078</b> |

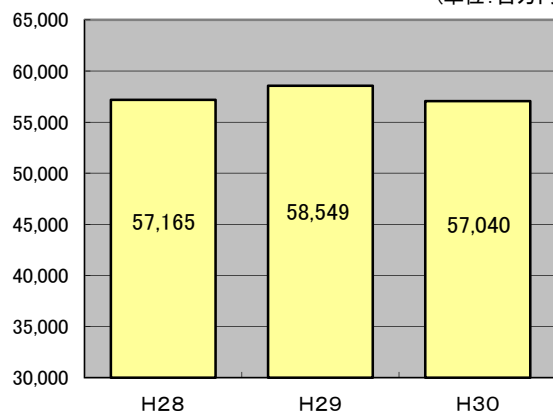
収入(決算額)の推移

(単位:百万円)



支出(決算額)の推移

(単位:百万円)

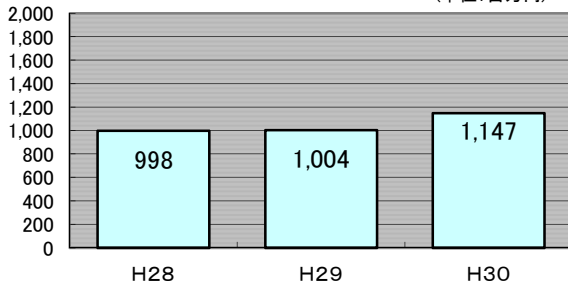




# 平成30年度 決算

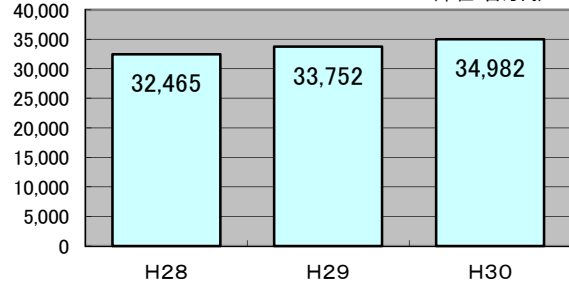
### 収入(補助金等)の推移

(単位:百万円)



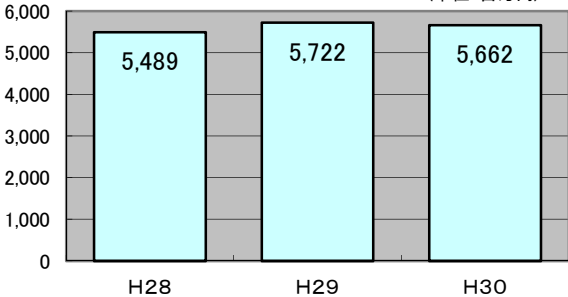
### 収入(自己収入)の推移

(単位:百万円)



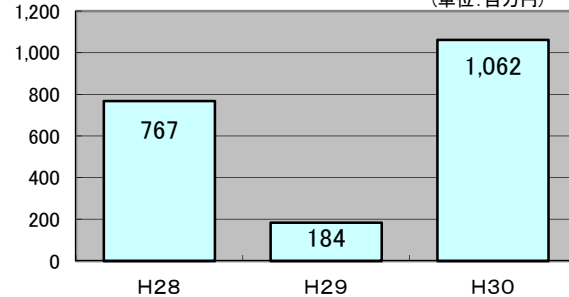
### 収入(産学・寄附金)の推移

(単位:百万円)



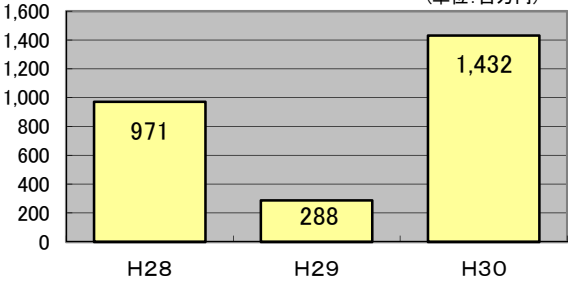
### 収入(長期借入金)の推移

(単位:百万円)



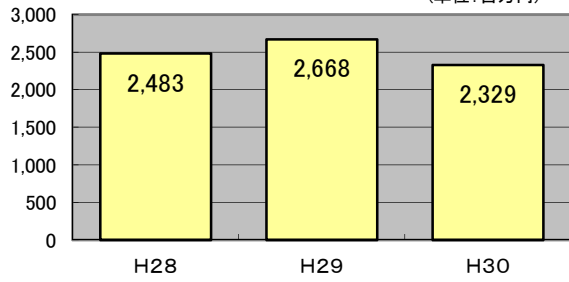
### 支出(施設整備費)の推移

(単位:百万円)



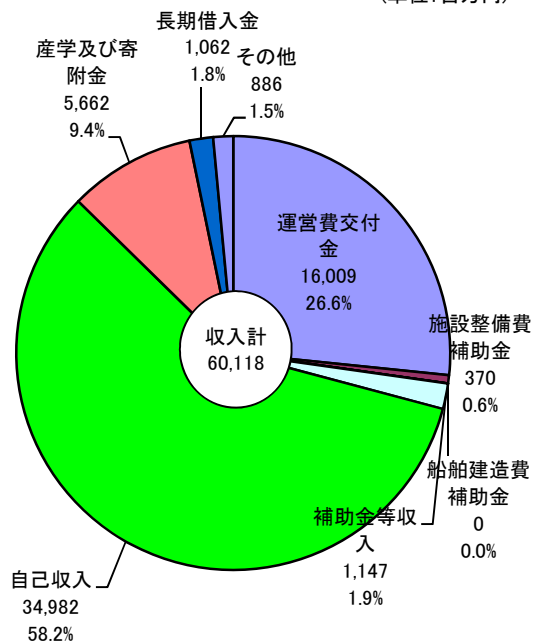
### 支出(長期借入金償還金)の推移

(単位:百万円)



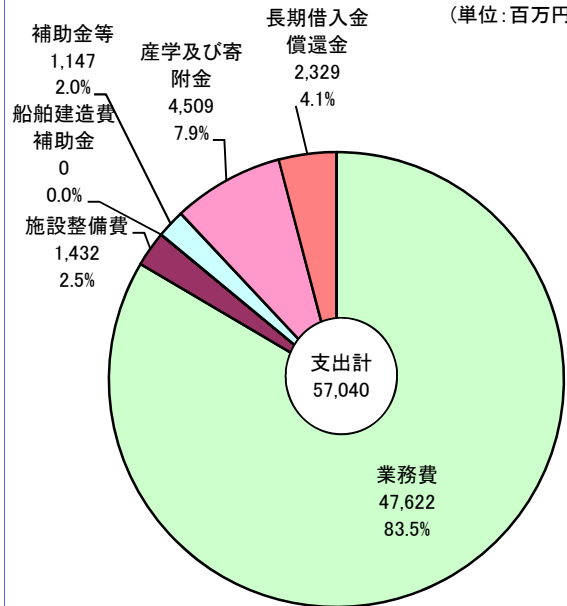
### H30収入(決算額)の構成割合

(単位:百万円)



### H30支出(決算額)の構成割合

(単位:百万円)



# 平成30年度 決算

## 主な財務指標

| No. | 項目 | 算式 | 29年度 | 30年度 | 30年度<br>6大学<br>平均※ | 指標の意味 |
|-----|----|----|------|------|--------------------|-------|
|-----|----|----|------|------|--------------------|-------|

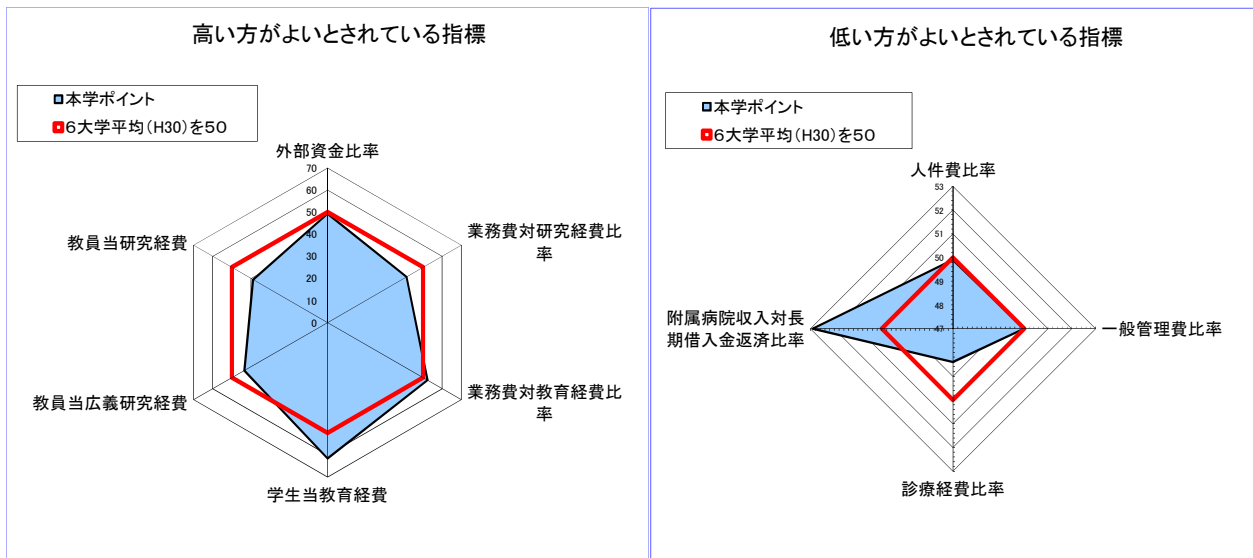
### 【 高い方がよいとされている指標 】

|   |            |                                     |         |         |         |   |
|---|------------|-------------------------------------|---------|---------|---------|---|
| 1 | 外部資金比率     | (受託研究収益+共同研究収益+受託事業収益+寄附金収益)/経常収益   | 7.2%    | 7.2%    | 7.3%    | 外部資金収益の経常収益に占める割合を示す指標。この比率が大きいほど外部資金による収益獲得割合が高い。  |
| 2 | 業務費対研究経費比率 | 研究経費/業務費                            | 5.0%    | 4.8%    | 5.8%    | 業務費に対する研究経費を示す指標。この比率が大きいほど研究活動に使用される経費割合が高い。   |
| 3 | 業務費対教育経費比率 | 教育経費/業務費                            | 4.5%    | 4.5%    | 4.3%    | 業務費に対する教育経費を示す指標。この比率が大きいほど教育活動に使用される経費割合が高い。   |
| 4 | 学生当教育経費    | 教育経費/学生実員5/1現在の員数                   | 267千円   | 276千円   | 224千円   | 学生一人当たりの教育規模を示す指標。この数値が高いほど学生一人当たりの教育に要する経費が大きい。  |
| 5 | 教員当研究経費    | 研究経費/教員実員5/1現在の員数                   | 2,218千円 | 2,172千円 | 2,790千円 | 教員一人当たりの研究規模を示す指標。この数値が高いほど研究活動で使用される経費が大きい。  |
| 6 | 教員当広義研究経費  | (研究経費+受託研究費+共同研究費+科研費)/教員実員5/1現在の員数 | 5,452千円 | 5,302千円 | 6,098千円 | 上記「教員当研究経費」に、受託研究費、共同研究費の研究経費と科研費の直接経費を加算した、研究者が研究に使用した経費を示す指標。この数値が高いほど外部資金獲得を含む研究活動の規模が大きい。 |

### 【 低い方がよいとされている指標 】

|    |                  |                                   |       |       |       |   |
|----|------------------|-----------------------------------|-------|-------|-------|---|
| 7  | 人件費比率            | 人件費/業務費                           | 51.1% | 50.3% | 50.4% | 人件費の業務費に対する割合を示す指標。この比率が小さいほど大学の効率性が高い。   |
| 8  | 一般管理費比率          | 一般管理費/業務費                         | 2.6%  | 2.2%  | 2.2%  | 一般管理費の業務費に対する割合を示す指標。この比率が小さいほど大学の効率性が高い。 |
| 9  | 診療経費比率           | 診療経費/附属病院収益                       | 61.5% | 62.9% | 65.0% | 病院収益に対する診療経費の割合を示す指標。この比率が低いほど病院の収益性が高い。  |
| 10 | 附属病院収入対長期借入金返済比率 | (長期借入金返済+大学改革支援・学位授与機構納付金)/附属病院収入 | 8.8%  | 7.4%  | 7.0%  | 病院収入に対する借入金の返済割合を示す指標。この比率が低いほど病院の健全性が高い。 |

※「6大学」とは国立の旧制医科大学をルーツに持つ大学で、医科系学部とその他の学部で構成された次の6大学の通称です。  
千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、熊本大学、長崎大学





本件に関する問い合わせ先

国立大学法人 長崎大学

財務部 財務企画課 決算班

TEL 095-819-2054  
FAX 095-819-2056  
yoketu@ml.nagasaki-u.ac.jp